

平成21年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	地方バス路線維持事業				開始年度	平成8年度	
基本目標	交通基盤の整備				終了年度	未定	
担当課(局)	政策推進課	担当係	総合政策係	記入者	杉田 将也	評価者	森 弘道
20年度決算	15,340	千円	21年度予算	12月補正計上予定	千円	事業の実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 単独
20年度人件費	359 千円		21年度人件費	364 千円		事業従事者数	0.05 人 0.05 人

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	宮崎交通楯が廃止した路線の代替バスを継続運行することにより、交通弱者の移動手段を確保する。
事業の内容	高鍋町から西都市までの4系統3路線の運行委託

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	# 乗車人員(1便当たり平均)	(運行継続可否の判断基準)
	2	
	3	
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	# 補助金	(廃止路線バス運行に係る欠損額を補助)
	2	
	3	

◎達成状況

指標名		単位	19年度	20年度	21年度
成果指標	乗車人員(1便当たり平均)	目標値	1.98	1.98	1.98
		実績値	1.98	1.98	
		達成率	100.0%	100.0%	
	0	目標値			
		実績値			
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
	0	目標値			
		実績値			
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
活動指標	補助金	目標値	15,049	15,340	15,340
		実績値	15,049	15,340	
		達成率	100.0%	100.0%	
	0	目標値			
		実績値			
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
	0	目標値			
		実績値			
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!

◎事務事業の評価

妥当性(必要性)	◎目的からして町が行うべきか ◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか ◎事業廃止による影響があるのか	交通弱者の移動手段として本事業は有効であり、市町村以外に受け皿はない。廃止した場合、利用者に対する影響は大きい。
有効性	◎目標に対して成果は得られているか ◎成果向上のための改善余地があるか	通院・通学等の交通手段として利用されているが、利用者数減少のため、年々補助金額(うち県費1/2)が増加している。本年度、県においても、現行の廃止路線代替バス等運行費補助金の交付路線について、必要性・効率性・妥当性等について再点検を行う。本町にとって真に必要な路線であるか、廃止も含めた見直しを関係市町と協議するとともに、町内巡回バス等への移行措置等についても検討が必要。
効率性	◎活動量の効果は上がっているか ◎経費や時間の削減余地があるか	宮崎交通楯が運行するバスの小型化が図られれば経費節減できるが、現状では難しい。
協働性	◎町民との協働の可能性があるか(ボランティア・NPO等)	なし。 巡回バス等への移行については、温泉バスや福祉・保険制度等の活用も含めた総合的な検討を行う。その際には、ボランティアやNPO法人等との協働の可能性がある。

事務事業名	地方バス路線維持事業	担当課(局)	政策推進課
-------	------------	--------	-------

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	<p>◎担当の方針に対する評価者としての所見</p> <p>◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等</p>	<p>利用者のアンケート調査を含めて、バス対策協議会で協議を重ねることになっているが、三納代経由西都線は、政治的判断が必要なので、町の考え方(財源を町内巡回バス充実へのシフトする)を確立することが必要である。現在、県単補助の半額助成が無くなれば、代替バスの運行は難しいと考える。</p>	今後の方向性					
			事業の方向性	拡充				
				現状維持			○	
				縮小				
				廃止				
	廃止	縮小	現状維持	拡充	コスト			

事務事業評価委員会 評価欄	事業	現状維持	<p>◎検討すべき事項が多すぎる。</p> <p>◎地方バス事業の変更が巡回バス事業に影響するため、一緒に考えていかねばならない。</p>
	コスト	現状維持	